

# 『大上地区社協』ニュース



■No.85 ■平成27年10月発行 ■大上地区社会福祉協議会 ■発行責任者 市ノ澤 寅夫

## 「笑いとおしゃべりいっぱい市」で秋の一日を楽しむ 深谷大上ふれあいの家で10月4日(日)に開催される

大上地区社協は、今年も「笑いとおしゃべりいっぱい市」を10月4日(日)に深谷大上ふれあいの家と隣接する柳川広場を会場として行ないました。

この催しは今年で5回目を迎え、今回も笠間市長や増田市社協会長を始め、地元選出の綱嶋県議や市議会の内山議員などの来賓と共に、綾瀬市内13の地区社協会長にも声を掛け、地元大上の皆さんが中心に400人が参加して、午前10時から秋の一日を楽しんでいました。

当日は天候にも恵まれ、会場入口には手作りの30体のかかしや34体の人形、そして3,000羽の折鶴が出迎え、来場された皆さんは、ほほえましい歓迎に感動していました。特にかかしは、北の台小学校3年生の全児童87名が協力して12体作ると共に、当日も両親や友だちと一緒に大勢が来場して楽しんでいました。

一方、会場では赤飯、玉こんにゃく、焼き鳥、フランクフルト、豚汁、ビール等も格安で販売され、皆さん買い求めて仲間と飲食しながら談笑する中で、特設ステージでは、大上太鼓クラブの熱演あり、君佳会の新舞踊の舞やさくら会のフラダンス、そして着物をリフォームした15人によるファッションショーなどが披露され、皆さん盛んに拍手を送っていました。続いてカラオケ大会が始まり、皆さん自慢のノドを披露し、最後は子どもから高齢者までがステージに上がり、会場の皆さんと一体となって“青い山脈”を歌い、集いも最高潮に達して幕となりました。

また、会場入口脇では今回も手作りの洋服や小物入れ等のバザーも行なわれ、皆さん好みの品を買い求めていました。そして、会場に隣接する安産・子育て・出世の守り神の地藏尊も地域の協力で特別にご開帳され、皆さん手を合わせていました。



400人が参加した笑いとおしゃべりいっぱい市の会場



3,000羽の折鶴が出迎える



児童が作った12体のかかし



人気の手作り品バザー



市長とかかしと一緒に



ステージを見ながら歓談



最後は「青い山脈」で最高潮に



特設ステージで：左から大上太鼓、君佳会の新舞踊、さくら会のフラダンスとファッションショーの皆さん